

平成21年度第3回日本海海況予報

1. 今後の見通し(2009年10月～12月)

- (1) 隠岐諸島北東の暖水域は、強い勢力を保ったままほぼ停滞する。能登半島北方の暖水域は、佐渡北西に移動する。上越沖の暖水域は、消滅する。男鹿半島沖の暖水域は、ほぼ停滞するが、弱体化する。
- (2) 島根沖、山陰・若狭沖、佐渡島沖、入道埼沖の各冷水域の張り出しは、平年並みで経過する。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、平年並みで経過する。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも平年並み～やや低めで経過する。

2. 経過(2009年6月～2009年8月)

- (1) 6月に能登半島西方にみられた暖水域は、隠岐諸島北方及び北西の暖水域と合体し、やや西に移動。6月に上越沖にみられた暖水域は、徐々に弱体化。6月に佐渡北方と山形沖にみられた暖水域は、北上し、6月に男鹿半島沖にみられた暖水域と合体した後、勢力を弱めながらもほぼ停滞。6月に津軽半島にみられた暖水域は、弱体化。
- (2) 島根沖の冷水域は、規模ははなはだ小さく大きく離岸。山陰・若狭沖の冷水域は、規模は小さく接岸距離は平年並み。佐渡島沖の冷水域は、規模及び接岸状況とも平年並み。入道埼沖の冷水域は、規模は小さくやや離岸(6月)。
- (3) 対馬暖流域の表面水温
6月：概ね”平年並み”。能登半島西岸域では”やや高め”～”かなり高め”。東北～北海道域では、”やや低め”～”かなり低め”で、奥尻島西方沖合域では”はなはだ低め”。
7月：能登半島北方域を中心に概ね”やや低め”～”かなり低め”。隠岐諸島周辺海域と佐渡海峡では”やや高め”～”かなり高め”。
8月：概ね”かなり低め”～”はなはだ低め”。山陰と北海道では”やや低め”～”平年並み”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも”やや高め”(6月)。

3. 現況(2009年9月)

- (1) 暖水域は、ウツリヨウ島北東、隠岐諸島北東、能登半島北方、上越沖、男鹿半島沖に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、規模及び接岸状況とも平年並み。山陰・若狭沖の冷水域は、規模は平年並みでやや離岸。佐渡島沖の冷水域は、規模及び接岸状況とも平年並み。入道埼沖の冷水域は、規模は平年並みでやや離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、日本海西部は、概ね”やや低め”～”平年並み”で、能登半島西方域で”かなり低め”。日本海北部は、概ね”やや低め”～”平年並み”で、新潟及び秋田の沿岸域では、”かなり低め”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも”平均並み”。

(註) 引用符(” ”)で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

”はなはだ高め”：約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ

”かなり高め”：約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ

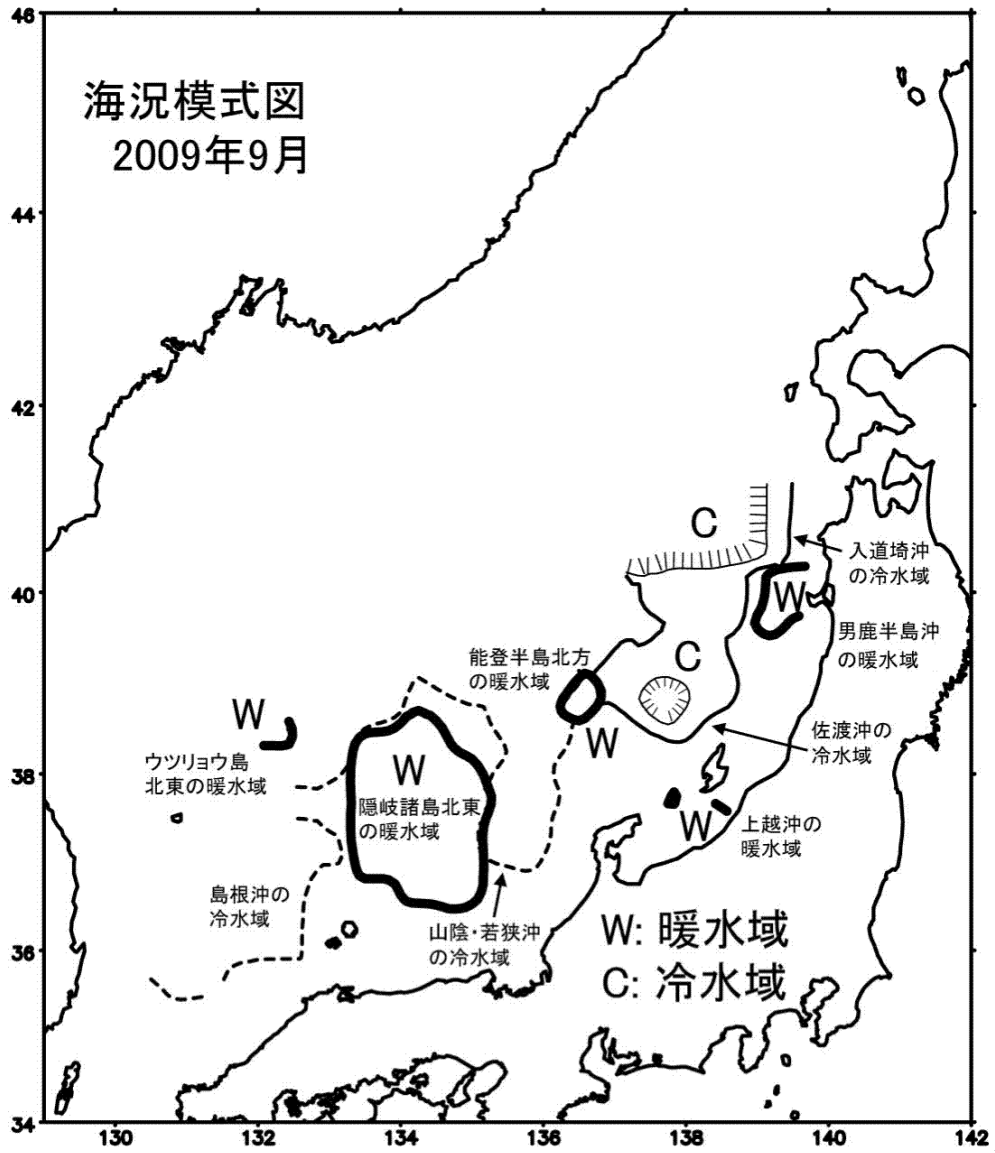
”やや高め”：約4年に1回の出現確率である1℃程度の高さ

”平年並み”：約2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温

”やや低め”：約4年に1回の出現確率である1℃程度の低さ

”かなり低め”：約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の低さ

”はなはだ低め”：約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の低さ



2009年9月の海況模式図

参 画 機 関

北海道立中央水産試験場	京都府農林水産技術センター 海洋センター
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	兵庫県但馬水産技術センター
秋田県農林水産技術センター 水産振興センター	鳥取県水産試験場
山形県水産試験場	島根県水産技術センター
新潟県水産海洋研究所	山口県水産研究センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	社団法人 漁業情報サービスセンター
石川県水産総合センター	水産庁増殖推進部漁場資源課
福井県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所